

久留米大学を受診した患者さんへ

「特発性黄斑分離症の臨床症状と硝子体手術の治療効果に関する調査研究」

の研究に使用する診療情報について

この研究では、久留米大学病院眼科を受診し、外来または入院の際に記録されている以下の診療情報を使用します。

- 1) 期間：2013年（平成25年）3月から2016年（平成28年）2月
- 2) 受診科：眼科
- 3) 対象疾患名：特発性黄斑分離症
- 4) 使用する情報：診療記録・画像などの診療情報

あなたの試料を今後の医学の進歩のために研究に使用させていただきたくお願い申し上げます。研究の内容の詳細は以下のとおりです。

研究内容をよくお読みになり、もし研究にご協力いただけない場合は、お手数ですが下記の連絡先までご連絡ください。

研究ご協力の撤回受付は研究成果の公表前までとなります。

ご了承いただけますよう、お願い申し上げます。

- 1) 研究組織：所属：久留米大学医学部眼科学講座
研究代表者：講師 春田 雅俊
研究分担者：教授 山川 良治

2) 研究の意義と目的：

黄斑分離症は高度近視、視神経乳頭小窩、網膜前膜などに続発して発症することが多く、視力低下やゆがみなどの症状をきたします。これらの黄斑分離症に対しては硝子体手術が有効とされ、手術後に黄斑分離症の改善が得られることが分かっています。近年画像診断機器の進歩によって頻度は比較的低いものの特発性黄斑分離症が報告されています。今回、久留米大学病院眼科での過去3年分の診療記録を後ろ向きに調査することによって、特発性黄斑分離症の臨床症状を明らかにするとともに、硝子体手術を施行した症例についてはその治療効果について調査することを目的としています。

3) 研究の方法：

2013年3月から2016年2月までに久留米大学病院眼科を受診し、光干渉断層計にて片眼性に特発性黄斑分離症を認めた患者さんを対象にしています。これらの患者さんの矯正視力、光干渉断層計による黄斑部の網膜形態や網膜厚を評価します。また特発性黄斑分離症に対して硝子体手術を施行されている患者さんは術後経過も調査します。

- 4) 研究期間：平成28年3月倫理委員会承認後～平成30年2月28日

5) 上記の診療情報の使用を選定した理由：

特発性黄斑分離症の臨床症状や硝子体手術による治療効果を明らかにするためです。

6) プライバシー保護・人権保護・倫理的配慮について：

今回の研究で得られた情報は厳密に管理されます。また取得した情報を個人が特定される形で公表することはありません。

7) 研究成果の発表の方法：

本研究の研究成果は、国内、国外の学会あるいは論文で発表する可能性があります。

8) 利益相反：本研究は特定企業からの資金援助はありません。

9) 事務局、問い合わせ、連絡先：

代表者氏名 春田 雅俊（久留米大学医学部眼科学講座、講師）

〒830-0011 福岡県久留米市旭町 67

TEL (0942)31-7574

FAX (0942)37-0324